

# 実践研究報告書

藤沢市立善行小学校

校長 吉田 早苗  
実践者 青柳 雅子

テーマ 『「OTSUKA 漫画ヘルシー文庫」の健康教育教材としての活用』

## 1 健康教育に係る学校の現状と課題

子どもたちは様々な家庭環境にあり、健やかな成長に欠くことができない基本的な生活習慣について、その知識や体験が一人ひとり異なることから、成長期における健康教育の必要性を日々、感じており、また、課題と考えている。

## 2 実践のねらい

養護教諭が行う保健指導において、「OTSUKA 漫画ヘルシー文庫」を健康教育教材として活用することで、児童の健康教育に対する関心を高める。

## 3 実践の内容と成果・課題

### (1) 実践組織(校内体制)

保健室経営における健康教育での取り組みを中心として実践活動を行った。(保健指導部)

### (2) 実践内容

日頃から行っている保健室来室児童への自由閲覧の資料として活用したり、保健委員会活動での資料として活用したりした。また、保健便り作成時の参考資料、保健室来室児童への個別指導資料として、広く健康教育実践の場面において活用した。

### (3) 成果

児童が興味を持ちやすいイラストで、まず手に取りやすいことも手伝い、一度読み始めるとなかなかやめられないでいる児童の姿を、度々目にした。一度読んで「OTSUKA 漫画ヘルシー文庫」の存在を知ると、何か調べ物などをしようとした時に思い出すらしく、5・6年生の児童保健委員がポスターや健康カルタ(2011・2012年度に児童保健委員会で作成し、健康カルタ大会を開催)の作成時に自ら手に取り、活用していた。このため、養護教諭からの健康教育だけでなく、児童保健委員からの健康指導にも活用することができた。このような、活用の幅が自然に広がっていくことは、予想外の成果であった。また、新たな知識の習得は児童にとって喜びであり、健康教育に対する抵抗感をなくす役割を果たしてくれたように感じている。

#### (4) 課題

校内で多岐にわたる役割を担う保健室において、必要な児童に、必要なタイミングで指導を行うことが難しい現状がある。この「OTSUKA 漫画ヘルシー文庫」の活用に限らないのだが、事前準備や計画のもと、できる限りではあるが、必要な児童にタイミング良く指導を進めていくことが大切であり、課題となっている。

#### 4 実践のまとめ

「OTSUKA 漫画ヘルシー文庫」は、常に保健室にあって、子どもたちの身近な健康教育資料となっている。それは、今回の実践研究期間に限ったことではない。

目の前の児童に伝えたいと思うことを、他の児童の応急手当をしている間などに読ませることが出来る。気づけばそこにいてくれる、健康教育の強い味方である。

今まで、そのことが当たり前となっていたため、改めて考えてみることもなかったが、実践研究としてまとめてみると、子どもたちにも養護教諭にも、いつも静かに寄り添いそっと支えてくれているパートナーであることを確認することができた。今後も、是非、養護教諭の健康教育推進のパートナーとして存在し、子どもたちの健やかな成長を見守っていただきたいと願っている。